

平成23年6月 東京地区百貨店売上高概況

平成23年7月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,259億円余
2. 前年同月比	0.4% (店舗数調整後/4か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭1.1%(89.5%) : 非店頭-5.9%(10.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 26店 (平成23年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	919,001㎡ (前年同月比:-1.6%)
6. 総従業員数	19,616人 (前年同月比:-5.9%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 0.4%、12-2月 0.8%、1-3月 -6.6%、 2-4月 -9.2%、3-5月 -10.7%、4-6月 -3.1%

[参考] 平成22年6月の売上高増減率は-5.5%

【6月売上の特徴】

- (1) 中旬までの低温多雨の天候が影響し、都内の「入店客数」は前年を若干下回ったが、消費意欲の回復によって「買上客数」は増加し、前年実績をクリアする結果となった。
- (2) 5%増と大きく伸ばしたメンズ部門では、父の日商戦の活況やクールビズへの注目度の高まりを背景として、具体的には、半袖ワイシャツ、ビズポロ、高機能肌着、ステテコ、扇子などのアイテムが極めて好調に推移し、売上を牽引した。
- (3) 都内各店では、富裕層の消費マインド改善がより鮮明になってきている。例えば、高級時計の動向を見ると、数十万円クラスのものより、100万円以上のハイエンドな価格帯の動きが目立っている。
- (4) 家庭回帰志向の高まりで、昨年から売上を伸ばしていた食器や調理器具などの家庭用品は、6月には震災の影響を完全に脱して再びプラス基調に戻ってきた。
- (5) 中元の前半戦は、都内各店とも5%前後のプラスと好調に推移した。中でも、ご自宅用の買上（自家需要）が昨年以上にシェアを高めたことなどが特徴となっている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
①増加した: 5店、②変化なし: 5店、③減少した: 11店、④不明: 0店
- (3) 6月歳時記(中元、父の日)の売上(同上)
①増加した: 3店、②変化なし: 7店、③減少した: 7店、④不明: 4店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
①増加する: 4店、②変化なし: 10店、③減少する: 6店、④不明: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2011年06月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	125,951,596	100.0	0.4 (-0.1)
紳士服・洋品	10,221,550	8.1	5.1 (4.9)
婦人服・洋品	23,332,164	18.5	-1.1 (-2.9)
子供服・洋品	1,754,758	1.4	1.7
その他衣料品	2,597,599	2.1	-1.6 (-1.6)
衣 料 品	37,906,071	30.1	0.6 (-0.6)
身のまわり品	16,023,227	12.7	-1.4 (-2.9)
化粧品	6,213,825	4.9	-4.2 (-6.6)
美術・宝飾・貴金属	6,805,342	5.4	4.0
その他雑貨	6,039,947	4.8	-3.7 (-3.9)
雑 貨	19,059,114	15.1	-1.3 (-2.2)
家具	1,803,131	1.4	-3.4 (-3.7)
家電	713,622	0.6	-13.9
その他家庭用品	4,608,706	3.7	10.5 (10.5)
家 庭 用 品	7,125,459	5.7	3.7 (3.7)
生 鮮 食 品	6,185,448	4.9	4.2 (6.5)
菓 子	9,140,093	7.3	2.8 (3.7)
惣 菜	6,645,676	5.3	2.6 (4.1)
その他食料品	14,658,106	11.6	-3.0 (-2.5)
食 料 品	36,629,323	29.1	0.6 (1.6)
食 堂 喫 茶	3,220,846	2.6	8.9 (8.3)
サ ー ビ ス	2,001,950	1.6	-2.8 (-6.4)
そ の 他	3,985,606	3.2	0.4 (0.4)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商 品 券	7,433,528 千円	-21.3 (-21.6)
従 業 員 数	19,616 人	-5.9
店 舗 面 積	919,001 m ²	-1.6

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、衣料品と家庭用品が4か月ぶり、食料品が5か月ぶりのプラス。マイナスは身のまわり品、雑貨。また、子供服・洋品が2か月ぶり、紳士服・洋品、美術・宝飾・貴金属、その他家庭用品、菓子が4か月ぶりのプラス、惣菜が2か月連続、生鮮食品が3か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.4	—	4か月ぶりプラス
紳士服・洋品	5.1	0.4	4か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-1.1	-0.2	4か月連続マイナス
子供服・洋品	1.7	0.0	2か月ぶりプラス
その他衣料品	-1.6	0.0	38か月連続マイナス
衣料品	0.6	0.2	4か月ぶりプラス
身のまわり品	-1.4	-0.2	4か月連続マイナス
化粧品	-4.2	-0.2	4か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	4.0	0.2	4か月ぶりプラス*
その他雑貨	-3.7	-0.2	37か月連続マイナス*
雑貨	-1.3	-0.2	4か月連続マイナス
家具	-3.4	-0.1	3か月連続マイナス
家電	-13.9	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	10.5	0.3	4か月ぶりプラス
家庭用品	3.7	0.2	4か月ぶりプラス
生鮮食品	4.2	0.2	3か月連続プラス*
菓子	2.8	0.2	4か月ぶりプラス*
惣菜	2.6	0.1	2か月連続プラス*
その他食料品	-3.0	-0.4	5か月連続マイナス*
食料品	0.6	0.2	5か月ぶりプラス
食堂喫茶	8.9	0.2	8か月ぶりプラス
サービス	-2.8	0.0	15か月ぶりマイナス
その他	0.4	0.0	3か月ぶりプラス
商品券	-21.3	-1.6	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>